

# 第4章 心柱としての人権教育

## 第3節 人権学習のデザイン

1時間の人権学習を実践する時間割上のコマは、主として道徳や学活になるだろうと思います。この節では、人権学習を時間割にどう位置づけ、どう展開するかを考えます。

この節は、

■人権教育と道徳教育■

■道徳における人権学習■

という2つの項から成っています。

### ■人権教育と道徳教育■

#### 1 道徳をめぐる今日的状況

2014年度を迎えた時点での道徳をめぐる今日的状況は、極めて緊迫している。「教育の森」の企画段階である2012年度末には、このくだりを書く予定はなかった。事態は急展開した。

第二次安倍内閣は、道徳の教科化の方針を打ち出し、2015年度からの実施に向けて準備を始めた。明らかになっている青写真では――道徳科検定教科書が作られ、それを使った指導が強制され、文章表記の評価をしなければならなくなる。

「検定教科書を使った指導が強制され」と書いたが、本当は「強制」なんかされないだろう。算数や国語がそうであるように、当然のこととして使うだけのことだ。

国語科では、「投げ込み教材」というカタチで教科書にない教材を使うことも

ある。道徳科においても、『なかまとともに』にある教材などを入れることは可能だ。だが、圧倒的多数は教科書オンリーの年間指導計画を立てるだろう。ましてや投げ込み教材中心の年間計画を立てることなど、皆無に近いはずだ。教育委員会から詳細な実施状況報告を求められることも、当然予想される。教科になった道徳のワクを使って人権教育をするには、それなりの自覚と覚悟が要る。

## 2 歴史の中の道徳と同和教育

「それなりの自覚と覚悟」という意味を理解するには、道徳と同和教育の歴史における接点に触れる必要がある。

文科省の道徳は戦前の修身と同一線上にある。文科省の言い分はともかく、一般にはそう理解されている。

修身は、戦争遂行の一翼を担った歴史の反省を踏まえ、戦後民主教育では姿を消した。しかし、保守の人たち(1955年の保守合同で自由民主党、つまり自民党になる)は、道徳という衣を着せて復活させる機会を虎視眈々と窺っていた。それが具体化するのが、1958年8月の「学習指導要領・道徳編」告示である。この後、特設道徳(官製道徳)反対運動が各地で展開される。

同和教育テキスト『なかま』は、1960年に創刊されている。文部省の道徳＝修身の対抗軸として、反差別・人権尊重の立場で作成されたのが『なかま』なのである。官製道徳反対を叫ぶだけでなく、奈同教は時間割の道徳枠で使える教材を提示した。教材づくりは1957年の『部落の子ら』に始まり、『なかま』はその延長線上にある。したがって、道徳との絡みで『なかま』を作ったというのは正しくない。しかし、歴史的に浅からぬ因縁があるのも確かだ。

それでは両者の違いはどこにあるのか。

奈良県同和教育研究会結成40周年記念誌『むなつき坂を越えて』(1992年)に松浦勇太郎さんの「『なかま』の刊行」という文章が掲載されていて、当時のいきさつを記録している。

「道徳教育、特に、特設時間による道徳教育では、子どもの生活に対する認識や真実を見通す力は育ってこない」という強力な意見が一般的であった。道徳の徳目には、体制を維持する道徳は強調されているが、部落解放にとって書かせない「人権尊重」や「科学性」「要求運動」については、ほとんど

とりあげられていないばかりか、項目のなかには部落差別を再生産するものさえあったのである。

人権尊重の精神に徹し、差別とたたかう意欲と実践力をもった人間は、このような道徳教育と特設時間のなかでは育たない。この官製道徳に対する強力な反対運動をくりひろげるなかで、「たんに官製道徳に反対するばかりでなく、『同和』教育にふさわしい教材を、地域の子どもたちの要求や親たちの願いにもとづいて、教師集団の組織が自主的に編集していこう。現時点における最も重要な課題である」という結論に達し、「同和」教育テキスト『なかま』の作成の具体化を強くせまられたのである。

半世紀以上前のこの指摘は、なお今日的であると私は感じている。

### 3 人権教育と道徳教育

近年、人権教育と道徳教育の距離感が小さくなっているように感じる。感覚的な話になるが、人権教育の内容が道徳教育に擦り寄っているように思えてならない。しかし、両者は「生まれ」も「育ち」も「目指すところ」も違う。具体的な教材を例にみてみよう。

ぶないです。  
と言ってしまいました。五年生たちは、「なによ。あんた、ちよつとなまいきよ。」と言って、わたしをにらみました。でも、わたしは、「やめてください。外であそんでください。」と、思いきって言いました。むねが、どきどきしていました。五年生は、そのまま外に行ってしまいました。時間がたつと、「言わなければよかった。後で、しかえしされたらどうしよう。」と思いました。そうじの時間、五年生の教室の前をびくびくして通りました。午後の勉強(べんきょう)ちゅうも、気になってしかありませんでした。  
家に帰って、おかあさんに、今日(きょう)のことを話しました。  
「あなたの言ったことは正しいわ。大じょうぶよ。」



42 41



#### 13 思いきって言ったけど

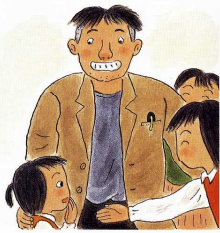
照沼美恵子

きゅう食(たべ)がすんで、わたしと道子(みちこ)さんは、外へあそびに出ようと、かいだん(みち)のところまで米(こめ)ました。すると、五年生が三人、かいだんの上から、とびおるきょうそう(りょうそう)をしてみました。両足(りょうあし)をそろえて、だんだんと高いところから、とびおっているのです。「あぶないわ。ちゅういしようかしら。」と、わたしが言いました。  
「でも、おこると思うわ。だまってしましようよ。」と、道子さんが言ったとき、また、一人がとびおりました。そして、通りかかった二年生のきゅう食当番(たべ)の子に、もう少しでぶつかりそうになりました。わたしは思わず、  
「かいだんであそぶのは、やめてください。みんなが通るところですから、あ

光村図書『どうとく3年 きみがいちばんひかるとき』(2000年)に「思いきって言ったけど」という教材がある。指導内容は「勇気」である。

文科省『心のノート 小学校3・4年』には「勇気を出せるわたしになろう」という教材がある。やはりテーマは「勇気」である。

2つの教材について、指導書の該当ページも紹介しておこう。黄色の網掛け部分に注目して読み進めてほしい。両教材に共通する「思想性」が見えてくるはずだ。



じっとしていました。すると、五年生たちは、教室の中へ入ってきて、わたしのそばまで来ました。わたしの心ぞうの音が聞こえました。ところが、五年生は、にこっとわらって、手をさし出しました。先生が、わたしのそばに連れられ、わたしと五年生のかたに手をおきました。

「よく、思いきって言ったね。」  
「言ってくださいました。」  
「つぎの日、きのうのことを先生にも話したら、少し心がかかるようになりました。」

帰りの会がすんで、せきを立ったとき、入り口の近くの子が来て、五年生がよんでいると言いました。わたしは、「しかえしに来たんだ。」と思ったので、わたしは、五年生たちは、教室の中へ入ってきて、わたしのそばまで来ました。わたしの心ぞうの音が聞こえました。ところが、五年生は、にこっとわらって、手をさし出しました。先生が、わたしのそばに連れられ、わたしと五年生のかたに手をおきました。

◆ 1 五年生の人に手をさし出されて、わたしはどんな気持ちになったでしょうか。  
◆ 2 今までに、どんなときにゆう気を出しましたか。その場面を思い出してみましょう。  
◆ 3 なかなかゆう気を出せない人には、どのようににはげましてあげますか。

43

## ゆう 勇気を出せる

勇気のある人とはどんな人でしょう。次のような人について考えてみましょう。

**あ** ぶないことなのに、弱虫と言われたくなくてやった人

**い** じめている友だちに「やめようよ。」と注意をした人

**う** そやごまかしを「いけない。」とはっきり言える人

**え** きでお年よりが電車に乗ってきてまよったけれど、席をゆずった人

**お** もいきりスピードを出して下り坂を自転車で競走した人

本当の勇気がある人とは、どんな人と言えるでしょう。上の例を参考にしながら書いてみましょう。

20

## 正しいことには勇気を出して わたしになろう

悪いことには「悪い。」まちがっていることには「まちがっている。」と、言える自分になりたい!

一人でなやまず、相談することも大事です。

◎ よいことや悪いことや、正しいかまちがっているか、しっかりはんだんしよう。  
◎ 自分のことだけでなく、いろいろな人のことを考えよう。

「やってみよう」「しなければいけない」「どうすればいいんだろう」と思ったら、そのことが正しいかどうかはんだんし、勇気をもって行動することが大切です。

21

# 13 思いきって言ったけど

1-(4) 勇気  
1-(2) 思慮・反省

1 ねらい 正しいと思うことは、勇気をもって進んで実行しようとする態度を育てる。

## 2 主題設定の理由

仲間意識が芽生え、グループ遊びが多くなり、強い者、好きな者には嫌われたくないという気持ちから、正しくないことと分かっているが黙って見過ごしてしまったり、同調していく傾向が見られる。

また、危ない遊びをしたり、けんかが強かったりする子を勇気ある者として英雄視することも多い。そこで、正しいと信ずることを利害を超えて実行することが真の勇気であることを分からせ、正しいことはどこまでもやり通そうとする態度を育てていく必要がある。

本資料は、日常生活でよく起きる事からであり、似た体験をした児童も多いと思われる。正しいことをしたにもかかわらず、主人公は仕返しを恐れて注意しなければよかったと後悔する。嫌われたくない、いじめられたくないという恐怖心と自己愛から生まれた感情が、主人公の心を揺さぶるのである。迷う主人公の姿に児童を共感させて、真の勇気について考えさせたい。また、謝りに来た五年生の行動も勇気があったことを押さえておきたい。

## 3 本時の授業を豊かにするための工夫

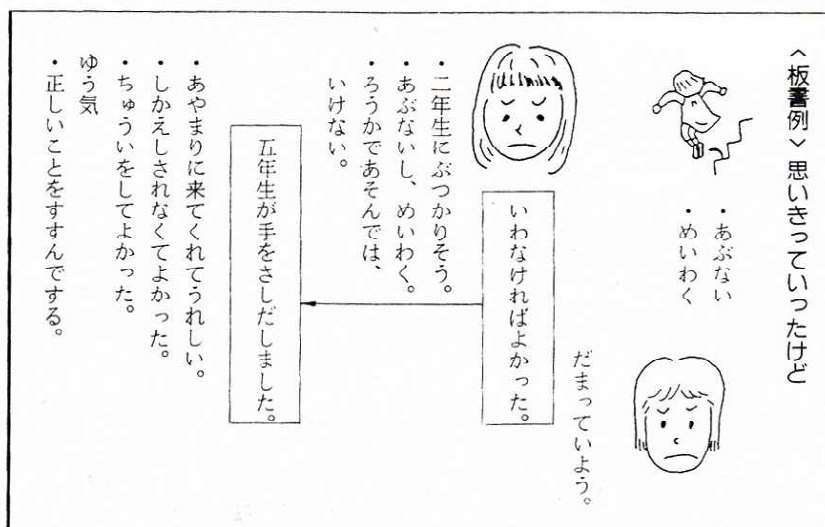
わたしと道子の顔、階段の場面などは、はり絵として用意しておくといよい。

役割演技では、注意したわたしと黙っていた道子の立場とを考え、五年生が去った後の二人の会話をさせる。そのとき他の児童にもセリフを考えさせると、両者の気持ちに共感でき、ねらいを正しくとらえさせることができる。

発問を、「こんなに後悔するのなら、やっぱり言わなければよかったのではないか」とし、教師が揺さぶりをかけると、活発な話し合いになる。その際、事前調査で勇気がなくてできないと書いていた子を意図的に指名して、全員に深く考えさせたい。

## 4 他教科・領域・家庭・地域等との関連

本資料のような事例は、学校生活の中でよく起こり得ることであるが、実行するのは難しい。そこで、朝の会や帰りの会で、勇気ある行動ができた者を称賛したり、勇気ある行為を新聞記事から見つけ出させたりして、常に考えさせるようにしたい。



## 参考

- 作者 照沼美恵子
- 関連資料(文部省資料) とうだいもりの少女 I-3-10
- 参考資料(故事・格言) ・義を見てせざるは勇なきなり ・勇気は敢行することで増し、恐怖は逡巡することで増す

## 5 展開例

学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点
<p>1 日常の経験を想起する。</p> <p>(1) きまりや約束を破った人を注意しないで、見過ごしたことはありませんか。それはなぜですか。</p> <p>① 公園の遊び場をよその子に横取りされた。乱暴そうな子だったので、怖かったから。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前調査によって、二、三人を意図的に指名する。</li> </ul>
<p>2 「思いきっていったけど」を読んで話し合う。</p> <p>(1) わたしが、五年生に注意したのは、どんな気持ちからですか。</p> <p>① 二年生にぶつかりそうだった。危ない。</p> <p>② みんなが通る所で遊ぶなんていけない。</p> <p>③ 黙っているとやめないから、やめさせよう。</p> <p>(2) 五年生に「なまいきよ。」と言われた後、道子さんとわたしはどんなことを話したでしょう。</p> <p>① 言わなければよかった、仕返しされたらどうしよう。</p> <p>② だから黙っていようと言ったのに。</p> <p>③ 二年生にぶつかりそうで危なかったから、つい口に出た。</p> <p>④ 上級生に注意するといじめられる。</p> <p>(3) 五年生が手を差し出したとき、わたしはどんなことを思ったでしょう。</p> <p>① 謝りに来てくれてうれしい。</p> <p>② 仕返しされなくてよかった。</p> <p>③ やっぱり注意してよかった。</p> <p>④ お母さんや先生の言ったとおりだった。</p> <p>(4) 道子さんとわたしの違うところはどんなところでしょう。</p> <p>① 道子さんは正しいことなのに怖がってできなかったけど、わたしはできた。</p> <p>② わたしには勇気があった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五年生の行いは正しくない、と判断したわけをしっかりと押さえる。</li> <li>・道子とわたしになって役割演技の方法で言わせる。</li> <li>・①では正しいことをしたにもかかわらず不安になった心情に共感させる。</li> <li>・②④の道子の言葉から、正しいと分かっているにもかかわらず、後悔するくらいならやらなければよかったのではないかと教師が切り返してもよい。</li> <li>・心の中に常にあった不安が一掃して明るくなり、自分の行いが正しかったことを確認したことに気づかせる。</li> <li>・正しいと信ずることは利害を超えて実行することが、真の勇気であることをとらえさせる。</li> <li>・謝りに来た五年生の勇気にも触れる。</li> </ul>
<p>3 自分たちの生活を振り返る。</p> <p>(1) 勇気を出して、正しい行いをしたことを発表して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の作文を読ませる。</li> </ul>
<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勇気がないために正しい行動ができなかった体験談を話す。</li> </ul>